

## 勇気を出して

マルコの福音書 15章 42-27節

### はじめに

私たちの教会では、毎月テーマを決めています。そして毎月、第一週の礼拝の説教では、その月のテーマに従ってお話しています。9月のテーマは、「奉仕」となっています。

今日は、十字架に張り付けにされて死なれたイエス様の遺体を、丁寧に葬った「アリマタヤのヨセフ」という人の姿から「奉仕」について学びたいと思います。私たちの奉仕とは、イエス様に対する奉仕であり、教会における奉仕です。

### 1. イエスの遺体の下げ渡し

イエス様は今から約二千年前に、十字架で張り付けにされて死なれました。ユダヤ人の宗教指導者たちの妬みを買って、訴えられ、最終的にポンテオ・ピラトのもとで十字架に張り付けにされ、処刑されたのです。

イエス様は午前9時に十字架に付けられました。そして午後3時過ぎに息を引き取られました。つまりイエス様は6時間にわたって、十字架で苦しまれたのです。

42節には、「さて、すでに夕方になっていた。その日は備えの日、すなわち安息日の前日であった」とあります。イエス様が十字架で死なれた日は、「安息日の前日」でした。当時の安息日は土曜日でしたから、イエス様が十字架で死なれたのは、金曜日ということになります。

しかし当時のユダヤの一日は、日没から始まり、日没に終わります。つまり夕方になると日付が変わるのです。イエス様は金曜日の午後3時過ぎに息を引き取られたので、あと二、三時間で土曜日になり、安息日になってしまう、そういう時間帯にイエス様は十字架で息を引き取られたのです。

旧約聖書の申命記21章には、こういう律法があります。「ある人に死刑に当たる罪過があって処刑され、あなたが彼を木にかけるとき、その死体を次の日まで木に残しておいてはならない。その日のうちに必ず埋葬しなければならない。木にかけられた者は神に呪われた者だからである。あなたの神、主が相続地としてあなたに与えようとしておられる土地を汚してはならない」(申命記21:22-23)。旧約聖書の律法では、木にかけられた死体は、その日のうちに葬られなければならない、次の日まで木に残しておいてはならないと定められています。なぜなら、木にかけられた者は、神様に呪われた者だからです。もしその死体をそのまま残しておけば、神様の約束の地が汚れてしまうからです。

イエス様も、神様に呪われた者として十字架で死なれました。しかしイエス様は、私たちのために神様に呪われた者となられたのです。私たちの罪を背負って十字架に架かり、私た

ちの代わりに神様に呪われた者となってくださったのです。

いずれにしても十字架で死なれたイエス様の遺体は神様に呪われたものですから、律法に従って、その日のうちに葬られなければなりませんでした。しかも次の日は「安息日」ですから、安息日が汚されないためにも、その日のうちに葬られなければなりませんでした。

しかしイエス様が息を引き取られたのは、金曜日の午後 3 時過ぎです。あと二、三時間で日付が代わり、「安息日」となってしまうという時間帯でした。ですから急いで、イエス様の遺体を十字架から降ろし、葬らなければならないという事態だったのです。

しかしこの時、イエス様の弟子たちは皆、怖くなって逃げてしまっていました。そのような中で、いったい誰がイエス様の遺体を十字架から降ろし、葬ることができるのでしょうか。ガリラヤからイエス様に従って仕えていた女性たちでしょうか。彼女たちはイエス様の十字架を遠くから見ていました。しかし彼女たちには、イエス様の遺体を十字架から降ろしたり、墓に運んだりする力はありません。イエス様の近くにいた弟子たちや女性たちが、誰もイエス様の遺体を十字架から降ろし、葬ることができない状況の中で、自ら名乗り出て、彼らに代わってそれらをしたのが、「アリマタヤのヨセフ」という人だったのです。

## 2. アリマタヤのヨセフの奉仕

アリマタヤのヨセフは、聖書の中で、イエス様の遺体を十字架から降ろし葬るという、この出来事にしか出てこない人です。しかしこの人が行ったこの出来事は、四つの福音書のすべてに書かれています。

このヨセフという人は、「アリマタヤ」というユダヤ人の町の出身で、エルサレムでユダヤ人の最高議会の議員の一人でした。ユダヤ人の最高議会は、祭司長、律法学者、長老によって構成される議会ですが、このアリマタヤのヨセフは、43 節にあるように、その中でも「**有力な議員**」でした。おそらく「長老」であったとされています。

しかしユダヤ人の最高議会と言えば、イエス様を死刑に定め、群衆を扇動してイエス様を十字架まで追いやった人たちです。そのような議会の「有力な議員」であったアリマタヤのヨセフが、なぜイエス様の遺体を十字架から降ろし葬ることになったのでしょうか。

43 節を見ると、彼は「**自らも神の国を待ち望んでいた**」とあります。またマタイの福音書には、「**彼自身もイエスの弟子になっていた**」(マタイ 27:57)とあります。彼は、イエス様を神の子キリストであると信じ、イエス様によってもたらされる神の国を待ち望んでいる人であったのです。

しかしヨハネの福音書を見ると、彼は「**イエスの弟子であったが、ユダヤ人を恐れてそれを隠していた**」(ヨハネ 19:38)とあります。彼はイエス様を信じていましたが、それを隠していたのです。というのも彼は、イエス様を憎んで死刑にしようと必死になっている最高議会の「有力な議員」でした。その中で、イエス様を神の子キリストであると信じているとは恐ろしくて言えなかったのです。そんなことを言えば、自分の地位がどうなるのか分かりませんし、身の危険もあったかもしれません。

しかし彼は、自分がイエス様を信じていることを隠しているからといって、議会の中で、イエス様を死刑にすることに賛成していたわけではありません。ルカの福音書には、彼は「**議員たちの計画や行動には同意していなかった**」(ルカ 23:51)とあります。彼は、自分の信仰を公にすることはありませんでしたが、議会がイエス様を死刑にしようとするには反対し、出来る限りの抵抗はしていたのです。

しかし43節を見ると、彼は「**勇気を出してピラトのところに行き、イエスのからだの下げ渡しを願い出た**」とあります。彼はこれまで「勇気を出して」、イエス様のために大胆に行動することはできませんでした。せめて、他の議員たちに同意しないぐらいしかできなかったのです。しかしここで彼はついに、「勇気を出す」のです。そして、イエス様の遺体の下げ渡しをピラトに願い出るのである。これは、彼の信仰の表明とも言えます。こんなことをしたら、他の議員たちに何を言われるか、何をされるか分かりません。議員としての立場も、最悪、自分の命も危うくなるかもしれません。しかし彼はここで、「勇気を出して」、自分の信仰的な立場を公にするのです。

何が彼をそうさせたのでしょうか。それは分かりません。しかし想像するには、イエス様ご自身が、最高議会の前で命の危険も顧みずに、「自分は神の子キリストである」とはっきりと告白して死んでいった、その姿に心を打たれたからではないでしょうか。イエス様は命を懸けて真実を告白しているのに、自分は地位や命を守るために、自分の真実な信仰を隠している、そんな自分が恥ずかしくなったのではないのでしょうか。そんな自分と決別するために、彼は「勇気を出して」、自分の信仰的な立場を明らかにし、イエス様の遺体の下げ渡しを願い出たのではないのでしょうか。イエス様の十字架の死が、彼に「勇気」を与え、彼の信仰を大胆に、また明らかにしたのです。

### 3. 自分のものを献げる

46節を見ると、ピラトの許可を得た彼は、「**亜麻布を買い、イエスをおろして亜麻布で包み、岩を掘って造った墓に納めた**」とあります。「亜麻布」というのは、とても高価なものです。彼は丁寧にイエス様の遺体を扱ったのです。ヨハネの福音書を見ると、「**以前、夜イエスのところに来たニコデモも、没薬と沈香を混ぜ合わせたものを、百リトラほど持ってやって来た。彼らはイエスのからだを取り、ユダヤ人の埋葬の習慣にしたがって、香料と一緒に亜麻布で巻いた**」とあります。イエス様の葬りには、アリマタヤのヨセフだけでなく、ニコデモも加わったのです。彼もまた、最高議員の議員の一人で、「律法学者」でした。彼もまた人目に隠れて、夜にイエス様のもとを訪ねて来て信仰を求めたのです。彼もまたアリマタヤのヨセフと同じように、イエス様の十字架の死の姿を見て、「勇気」を得て、自分の信仰を明らかにしたのではないのでしょうか。彼らは、自分たちの物を献げて、亜麻布と香料で、イエス様の遺体を丁寧に扱い、葬ったのです。

イエス様が葬られた墓は、マタイの福音書を見ると、「**岩を掘って造った自分の新しい墓**」(マタイ 27:60)とあります。つまり、イエス様が葬られた墓は、アリマタヤのヨセフの墓だっ

たのです。彼は、自分が死んだ時のためにと買っておいた自分の墓に、イエス様の遺体を納めたのです。

アリマタヤのヨセフにしても、ニコデモにしても、彼らは自分のものを献げて、イエス様のために奉仕したのです。もちろん彼らは、最高議員の議員で、社会的な地位もあるので、金持ちであったでしょう（マタイ 27：57）。それでも彼らは、自分の持っているものを惜しみなく献げて、イエス様に仕えたのです。

#### **4. 自分だからできることで奉仕する**

アリマタヤのヨセフは、ピラトにイエス様の遺体の下げ渡しを願い出ました。そして、ピラトからその許可を得ました。これは、アリマタヤのヨセフだからこそ、できたことであつたと思います。

もしガリラヤからイエス様に従って仕えていた女性たちが、ピラトにイエス様の遺体の下げ渡しを願い出ても、おそらくピラトは許可しなかったのではないのでしょうか。当時、女性の身分は低かったので、ピラトに願い出ることすらできなかったかもしれません。

アリマタヤのヨセフは、最高議員の「有力な議員」で、当時のユダヤ人の中で、社会的な立場もしっかりしている人でした。だからこそ、ピラトに願い出ることができ、許可を得ることもできたのではないのでしょうか。それに女性たちだけでは、イエス様の遺体を十字架から降ろすかも、運ぶ力もなかったでしょうし、遺体を納める墓も持っていなかったのです。

イエス様の遺体を十字架から降ろし墓に葬るということは、アリマタヤのヨセフだからこそできることだったので。彼は、自分の財産を用い、自分の社会的立場も用いて、イエス様のために奉仕したのです。

#### **おわりに**

アリマタヤのヨセフは、十字架で死なれたイエス様のからだを葬る奉仕をしました。私たちクリスチャンも、イエス様のからだである教会に仕え、奉仕することが求められています。アリマタヤのヨセフが、イエス様のからだを丁寧に扱ったように、私たちもイエス様のからだである教会を、大切に扱っていききたいものです。

私たちは、教会を通して、イエス様ご自身に仕え、奉仕していきます。その時に、原動力となるものの一つは、イエス様の十字架の姿です。イエス様は、命を懸けて私たちのために十字架の苦しみを耐え忍んでくださいました。イエス様の十字架の姿は、私たちに「勇気」を与えてくれます。私たちのために苦しみを耐え忍んでくださったイエス様のために、私たちも「勇気」を出して信仰を明らかにし、何かの奉仕をしていきましょう。

イエス様は、私たちのために命をも献げてくださったのですから、私たちも自分の持っているものを惜しみなく献げて、イエス様に仕えていきましょう。また、イエス様は、私たちが教会に仕えるために、私たち一人一人に賜物を与えてくださっています。自分だからできること、自分にしかできないことで、イエス様に仕えていきましょう。

天におられる私たちの父なる神様。

イエス様は私たちのために十字架で死なれました。私たちのために肉体的・精神的・霊的な苦しみに耐え忍び、十字架の贖いを成し遂げてくださいました。

十字架の死を通してアリマタヤのヨセフやニコデモの信仰を呼び覚ましたように、私たちの信仰も強めてください。私たちもあなたのために、何かをすることができますように。

私たちに与えられているものを用いて、自分だからできること、自分にしかできないことを見出して、あなたと教会に仕えていくことができますように。

この祈りを私たちの救い主イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン。